

館山支部だより

平成31年1月号
(2019.1.26 通巻90号)

<支部連絡窓口>
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表)川村 巖
Tel 0470-22-0230



2019.1.8 21航空群初飛行訓練

遅ればせながら新春のお慶びを申し上げます
31年目を迎えた「平成」も間もなく新しい元号に切り替わろう
としています。今年が会員諸兄ご家族にとって輝かしく幸せな
年でありますようお祈り申し上げます。 <支部長>

新春の穏やかな晴天に恵まれ、富士を背景に恒例の第21
航空群の初飛行訓練が行われました。

群司令訓示に続き昨年春に改編された第21航空隊・第211、
第212及び第213飛行隊で編成された3機編隊が基地を離陸、
洲の埼を経て所定のコースを飛行し、無事故飛行達成の祈願
とともに任務完遂に向けた決意を確認しました。

支部の活動概要

<<12・1月活動実績>>

- 12.15(土) 歴史講話・現地研修支援(佐野地区)
- 1. 9(水) 21空群司令年始表敬挨拶(3団体代表)
- 1.26(土) 支部1月役員会(コミセン)

<<2・3月活動予定>>

- 2月上旬 派遣海賊対処行動飛行隊帰国出迎え
- 3. 4(月) 県隊友会後期理事・支部長会議(千葉市内)
- 3.21(水) 館山市戦没者合同慰霊祭(鶴ヶ谷八幡宮)
- 3.30(土) 支部年度末役員会(コミセン)

千葉公園の一郭に佇(たたず)まう「婦人像」の祈り



毎年、春秋の千葉県護国神社例大祭では千葉県隊友会は昇殿拝礼とともに車両統制・清掃等の奉仕作業協力を続けております。神社と隣り合わせの千葉公園の一郭(お花見広場)には、壮大な千葉県忠霊塔のほか陸海軍関係の慰霊碑が建てられており、その中の「婦人像(写真)」に目を惹かれました。近寄ってみても台座に彫られた「大地」の文字のほか銘板らしきものも見当たらず、傍らで勝手なことを言い合っていたご婦人連の一人が「従軍慰安婦像じゃない?」とか。ついに日本にも慰安婦像の上陸を許すことに?...

一行が去った後、よく見ると目立たぬ場所に銘板があり、1996(平成8)年に「全国強制抑留者協会千葉県支部連合会」が建立した碑で、「先の大戦でシベリアに連行されて厳しい環境下長期にわたって過酷極まる労役を強いられ、望郷の願いも空しくシベリアに永遠の眠りにについている多くの同胞の鎮魂を祈願」する趣旨が記されておりました。「婦人像」は、できごとの舞台となった広大な満蒙・朝鮮を「(母なる)大地」になぞらえ、陸続きのシベリア各地に眠る同胞に鎮魂の祈りを捧げる母の姿を顕しているのでしょうか。

再び北方四島問題について そもそもシベリア強制抑留は、日本のポツダム宣言受諾・無条件降伏の後に起こったできごとであり、非戦闘員を含む60余万の邦人の強制連行・使役が、国際法上犯罪行為であるにも関わらず何ら糾弾されることもなく、当事国による謝罪もない。理不尽極まる話だと思ふのです。北方四島の領有問題も然り。日本の停戦1週間前に中立協定を一方的に破棄し、満州、朝鮮に大軍を侵攻させて殺戮、略奪とともに北方四島を不法占拠して自分の領土として世界に宣言している。今に始まったことではありませんが、旧ソ連・ロシアという国は 実に”したたかな国”だと思いませんか。

(得体の知れない)「日ロ平和条約」の締結に向けて”朝日新聞”が、「歴史検証に堪える交渉を!」という見出しで社説を載せております。立派なことを書いていると思うのですが、この”したたかな国”に通用し、説得できるような方便でもあるのでしょうか。「言うは易(やす)く行うは難(かた)し」、このへんが多くのマスメディアの「ズル賢イ」ところだと思ふのです。旧ソ連・ロシアでは国を挙げて、一方的な武力行使による北方四島の領有もシベリア抑留も「自分たちは正当だった」、この考え方がロシア人の「歴史認識」を支配しているのです。

先週の日ソ首脳会談では歯舞・色丹二島の返還を軸に今後交渉を進めるとか。将来に禍根を残すような幕引きは避けて欲しいですね。ともかく”したたかな相手”に対してはそれなりの対応が大原則なのです。日本の将来のため、子々孫々・我々の孫たちが誇りと自信をもって、胸を張って国際社会で生き抜くためにも!

<川村 巖会員(海)・支部長>

年度末を控えて ~支部活動の総括と今後の見極め

年度活動の総括(分析、次年度計画への反映)とともに、懸案の「今後の支部の運営に関する見極め」について「(方向性を含めた)結論」をまとめる時期になりました。

中央施策(隊友会本部及び県隊友会)に応え、支部の活動を推進する上で現在直面している「支部運営基盤の整備」、その鍵となるべき「役員の選出※」が喫緊の課題であると認識しております。

※(ある程度)専断的に会務の運営に携わり、奔走できる役員の選出について、個別に交渉・打診を進めておりますが、行き詰まっている状況です。さらなるご理解ご協力をお願い致します。 <支部長>

相比 ック&ハ ランテ ィア の募集について

隊友会(本部)が、オリンピック組織委員会から「支援要員の募集協力」について依頼を受けたものです。

業務内容は「IOCや各国オリンピック委員会関係者等(選手を除く)の輸送ドライバー(普通車)」ですが、応募条件として75歳以下、健康良好、活動期間(大会期間中10日以上)等々の規定があります。(応募要領)関心のある方は支部事務局まで問合せ下さい。 <締切4月30日、支部事務局Tel22-0230>

次年度会費等の納入について

会費等納入の時期になりました。会費収入は隊友会の運営上、かけがえのない資金源となるものです。該当者(年会費または会運営協力費)には依頼書と払込取扱票(振込用紙)を同封しましたので、3月末までの納入についてご理解ご協力をお願いいたします。 <支部事務局>

レクイエム

1/7 矢野 清己会員(海) ご逝去(享年84歳)
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。合掌 <支部会員一同>

会員の異動

10月期 辰野 誠会員(海、79歳) 体調不良につき退会申出
長年、会員・支部理事として会務の運営に多大のご尽力有難うございました。

87年前の館山飛行場建設と辺野古埋立て

沖縄の普天間飛行場の移転問題に絡んで辺野古基地の整備が決まってからすでに二十数年が経過し、紆余曲折を経て埋め立ての土砂の投入が開始されたもつかの間、今週初めには軟弱地盤の問題が浮上し、工事の設計変更承認をめぐって法廷闘争に発展しかねない状況にある。

沖縄の米軍基地や日米地位協定の問題、サンゴ礁やジュゴンの生息環境保全の問題等々も絡んで行き先まったく不透明と言えよう。一方で、2020年3月の供用開始を目指して着々と工事が進められている那覇空港第二滑走路については、辺野古の数倍規模の埋立て工事にも関わらず、県知事の積極的な取組み姿勢とともになぜ反対運動が起きないのだろうか、という素朴な疑問が頭から離れない。先の大戦で本土で唯一戦場となり、県民の多くが直接戦闘に参加し、多くの犠牲者が出た歴史的な背景を考えると、問題がサンゴやジュゴンの生息云々ではなく、極めて根深いものがあることを本土の人々は理解に努めるべきであろう。

87年前の館山飛行場の建設は、関東大地震(T12.9.1)で海底地盤が隆起し、鷹の島と地続きになった場所の埋立てであるが、県知事の「公有海面の埋立て」認可を得ることが不可欠であり、時代背景等は異なるが当時も決してすべてが順調に事が運んだわけではない。

館山飛行場の埋立ての経緯~申請から認可まで

古文書(旧海軍)によれば、海軍省は昭和3年度内の着工を目指して県知事への埋め立て申請(S3. 9申請書提出)とともに業者、資材の手配等、工事の諸準備を整えていたが、なかなか認可が下りず「至急承認を得たく・・・」の文面で督促文書を提出している。県知事から認可が降りたのは翌年(S4. 7)のことであり、その1週間後に海軍省から着工届の文書が出されていることから、かなり「着工」を急いでいた様子が伺える。 ※県知事から出された埋立ての認可には、次のような条件が付されていた。

○(鷹の島の)巖島神社(「鷹の島弁財天」)及び神社用地は手を付けずそのまま残す(存置させる)こと。

○一般人(参拝者等)が巖島神社に自由に往来できるよう、海軍側で海岸と神社間に道路を設け、道路と飛行場との境界柵を設けること。海軍用地(飛行場)の中に(飛び地として)神社の存在を認めることは、基地としては保全保安面で問題を抱えることになったが、この背景には神社関係者等の陳情に加えて地方の名士や県出身の退役海軍高官などの後押しがあったことは確かなようである。

結局、海軍は県知事の条件をすべて受け入れ、突貫工事でもって当初計画のS5年6月の開隊にこぎつけることができた。とは言い、開隊時は水上機のみ運用であり、飛行場の養生(芝、排水工事等)が終わって陸上機の配備が始まったのは6年度後半、当初計画の施設がすべて竣工したのは8年度と見られる。成瀬写真館(館山市)が昭和8年に「館山航空隊写真帳(アルバム)」を刊行したのも、基地の威容が整ったこの時期に合わせたものであろう。「公有海面の埋立て認可」の遅れが工事計画に相当影響を及ぼしたものと史料される。

後日譚(一部は以前にも紹介)

館山航空基地の中に飛び地として航空隊と共存することになった巖島神社であったが、鷹の島地区の弾薬庫や燃料庫等の整備が進み、保全保安上航空隊から神社の移転の要求が出され、昭和9年半ばには巖島神社のご神体は市内北下台(「ぼっけだい」)に移され、短い共存共栄の時代も幕を閉じた。神社に至る参詣道路は閉鎖され、残された巖島神社社屋は修理されて航空殉職者を祀る「館山航空神社」に姿容した。

現在の隊門付近から鷹の島に至る幅の広い岸壁沿いの道路は当時の参詣道路であり、境内の「飛行機の彫り物の手水石」や「〇〇海軍大尉」の名が刻まれた狛犬(こまいぬ)などは、当時の館山航空神社の名残にほかならない。

<自称地域史探索マニア(海) その23>